第４編　山根Ⅲ遺跡Ⅲ

第１章　既往の調査

これまで山根Ⅲ遺跡では、町教委、事業団によって７回の調査が実施されている。町教委が４回（第 197 図１～４、第 27 表）、事業団が３回（同図Ａ・Ｂ・C、同表）である。今回の発掘調査は、町教委が実施した第３次調査の町営横壁土地改良事業に伴い実施した試掘調査を受けての本調査である。

町教委は平成 16 年度から発掘調査を行なっている。第１～２次調査は個人住宅建設に伴い実施した試掘調査である。第１・２次調査では遺構・遺物は確認されなかった。いずれも地山がローム層ではなく礫層ないし礫混土であり、深沢の氾濫や山押しによるものと推定されている。第３次調査では、陥し穴や土坑など縄文・平安時代の遺構が確認された。第４次は農業経営近代化施設の建設に伴い実施された。本調査区の隣接地の調査であり、陥し穴や土坑など縄文・平安時代の遺構が確認された。

事業団は平成 10・13・18 年度に八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施している。平成 10 年度は横壁地区内町道拡幅・深沢橋橋台建設工事に際して実施され（Ａ地点）、縄文時代中期後半（曽利Ⅱ式～曽利Ⅳ式）の竪穴住居跡などが確認されている。平成 13 年度は国道 145 号線建設工事に際して実施され（Ｂ地点）、縄文時代中期後半（曽利Ⅱ式～曽利Ⅳ式）の竪穴住居跡などが確認されている。平成 18 年度は国道 145 号線建設工事に際して実施され、今回の発掘調査区と隣接する（Ｃ地点）。縄文時代中期後半（加曽利ＥⅢ式・Ｅ式併行）の竪穴住居跡などが確認されている。

第 27 表　山根Ⅲ遺跡調査一覧（文献番号は序説末の参考文献参照）

番号	調査年度	調査原因／調査種類	調査機関	調査面積（開発面積）	概要	備考
1	平成 16 年度	個人住宅建設／試掘調査	長野原町教育委員会	10㎡（1,936.74㎡）	遺構なし 地盤がローム混礫層	文献 16
2	平成 17 年度	個人住宅建設／試掘調査	長野原町教育委員会	10㎡（1,282㎡）	遺構なし 地山が暗褐色礫混土（巨礫多含）	文献 17
3	平成 29 年度	町営横壁土地改良事業／試掘調査	長野原町教育委員会	276.0㎡（77,470.50㎡）	（縄文・平安）土坑、陥し穴等	文献 36
4	平成 31 年度	農業経営近代化施設建設／発掘調査	長野原町教育委員会	700㎡（1,000㎡）	（縄文・平安）土坑、陥し穴等	—
A	平成 10 年度	町道拡幅・深沢橋橋台建設／発掘調査	（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団	2,032㎡（－㎡）	（縄文）中期後半住居跡１軒、中期土坑４基、中期包含層； （不明）土坑 13 基； （遺構外）縄文石器、弥生土器、銭貨、小刀	文献 105
B	平成 13 年度	国道 145 号線建設／発掘調査	（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団	1,180㎡（－㎡）	（縄文）中期後半住居跡３軒、土坑 28 基； （縄文～弥生）縄文早期後半～弥生中期前半包含層； （古代～中・近世）土坑４基； （近世以降）土坑５基、溝１条	文献 119・175
C	平成 18 年度		（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団			

第２章　調査の経過

発掘調査は、平成 30 年８月 28 日から開始し、同年 12 月 18 日に終了した。調査区内で打って返しによる表土掘削を行うため、便宜上、広範囲の調査区を北から南に向かって①～⑥区に区分した（第 199 図）。

８月 28 日、①区の表土掘削を開始する。８月 30 日、町教委と架空線の取り扱いについて打合せを行う。

９月３日、⑤区の表土掘削を開始する。９月６日、①･⑤区の空中写真撮影、測量を実施し、調査を終了する。９月 12 日、⑥-１区の表土掘削を開始する。９月 19 日、③-１・④-1 区の表土掘削を開始する。⑥-１区の遺構掘削作業を開始する。９月 28 日、③-１・④-1 区の遺構掘削作業を開始する。

10 月４日、⑥-１区の空中写真撮影、測量を実施し、⑥-１区の調査を終了する。10 月 10 日、⑤-2 区の表土掘削を開始する。③-1・④-1 区、⑤-2 区の空中写真撮影を実施する。10 月 15 日、③-1・④-1 区、⑤-2 区の測量を実施し、調査を終了する。10 月 16 日、⑥-2 区の表土掘削を開始する。10 月 24 日、④-2 区の表土掘削を開始する。10 月 26 日、⑥-2 区の空中写真撮影、測量を実施し、調査を終了する。10 月 30 日、④-2 区の空中写真撮影、測量を実施し、調査を終了する。

11 月 5 日、③ -3 区の表土掘削を開始する。11 月 9 日、③ -3 区の空中写真撮影、測量を実施し、調査を終了する。11 月 13 日、③ -2・④ -3 区の表土（畑土）掘削を開始する。11 月 19 日、②区の表土（畑土）掘削を開始する。11 月 21 日、③ -2・④ -3 区の表土（下層土）掘削を開始する。11 月 27 日、②区の表土（下層土）掘削を開始する。

12 月 5 日、③ -2・④ -3 区の空中写真撮影、測量を実施する。12 月 6 日、③ -2・④ -3 区の調査を終了する。12 月 13 日、降雪のため、②区を三分割して調査することとする。② -1 区の除雪後、空中写真撮影、測量を実施する。12 月 14 日、② -2 区の空中写真撮影、測量を実施する。12 月 18 日、② -3 区の除雪後、空中写真撮影、測量を実施し、② -3 区の調査を終了する。山根Ⅲ遺跡の全区の調査が終了する。

第３章　基本層序

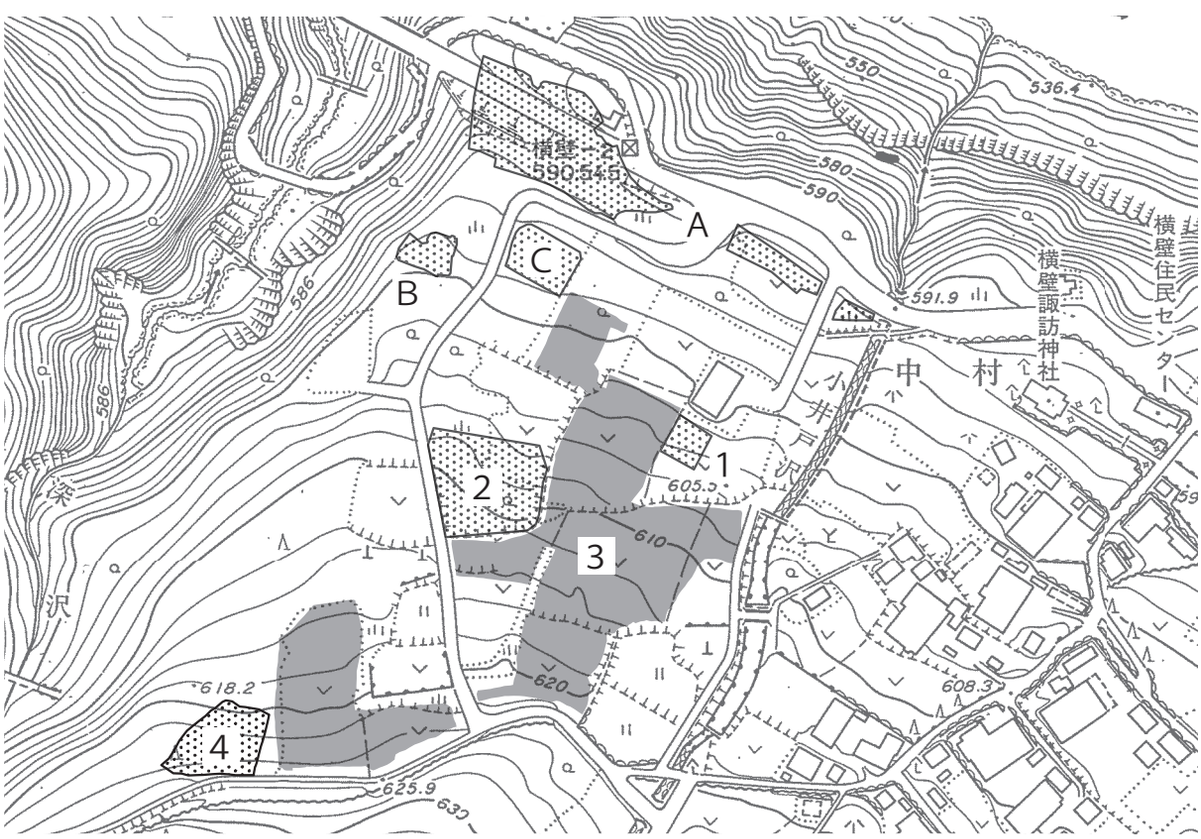
今回の発掘調査の基本層序は、第 199 図の A 地点で確認した。A 地点は、調査区の南西隅に位置する⑥区の北壁で、埋没谷の左岸である。

第Ⅰ層　黒褐色土　：　表土で現代の畑の耕作土である。粘性・しまりともにない。試掘９～ 12・14・15 号トレンチの１層に相当する。

第Ⅱ層　黒 色 土　：　表土で現代の畑の下層土である。粘性・しまりともにない。埋没谷部では厚くなる。いわゆる黒ボク土に相当する土層か。試掘９～ 15 号トレンチの２層に相当する。

第Ⅲ層　暗褐色土　：　ローム漸移層である。粘性・しまりともに弱い。ローム粒（φ 0.1 ～ 0.5cm）微量含む。試掘９・10・12 ～ 15 号トレンチの６層に相当する。

第Ⅳ層　褐色粘土　：　ローム層である。粘性・しまりともに弱い。YPk（φ 0.5 ～ 1.0cm）微量含む。⑥区以外は粗礫や巨礫を多含する。試掘９～ 15 号トレンチの７層に相当する。



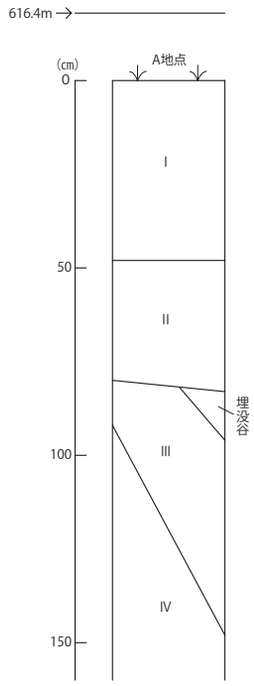
第197図　調査区位置図（1/2,500）

第４章　検出された遺構と遺物

第１節　遺跡の概要

山根Ⅲ遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字横壁字山根に所在する縄文時代早期の土坑と平安時代の陥し穴を少数検出した遺跡である。遺跡は、吾妻川流域地帯に属し、吾妻川の支流である深沢と白岩沢に挟まれた吾妻川右岸の中位段丘面上に立地する。遺跡のある段丘面の西部は、丸岩山の山裾から北流する中村沢（旧小井戸沢）によって形成された沖積錐地形であり、遺跡は中村沢の左岸に位置している。遺跡の地形は南から北へ下がる斜面地となっている。調査区は現道により東西に分かれているが、現道の東西は礫層に占められており、旧河川か埋没谷が南北方向に走行していたと考えられる。調査区の東端部でも礫層があり、中村沢の一部であったと考えられる。調査区東部の中央付近（③-2・④-3区）と、調査区西部の西端部（⑥区）で礫層ではない土層が残っており、微高地であったと考えられる。現況は調査区内が耕作地で、調査区周辺には住宅や水田が見られる。標高は598.0m～625.0ｍである。

今回の発掘調査は山根Ⅲ遺跡の第３次調査にあたる。調査範囲は事業地内の水田部分と宅地部分を除いた箇所にあたり、大字横壁字山根395外に所在する。調査範囲の大半は地盤が礫層であるため、遺構は中央部と南西隅の約１／５に分布している。確認された遺構は、縄文時代と考えられる土坑９基、平安時代と考えられる陥し穴４基、時期不明の陥し穴１基、土坑８基、溝１条である。出土した遺物の種類は、縄文土器、古墳前期の土師器、銅製品などで、その数量はテンバコで１箱分であった。



第198図　基本土層柱状図（1/20）

第２節　縄文時代の遺構と遺物

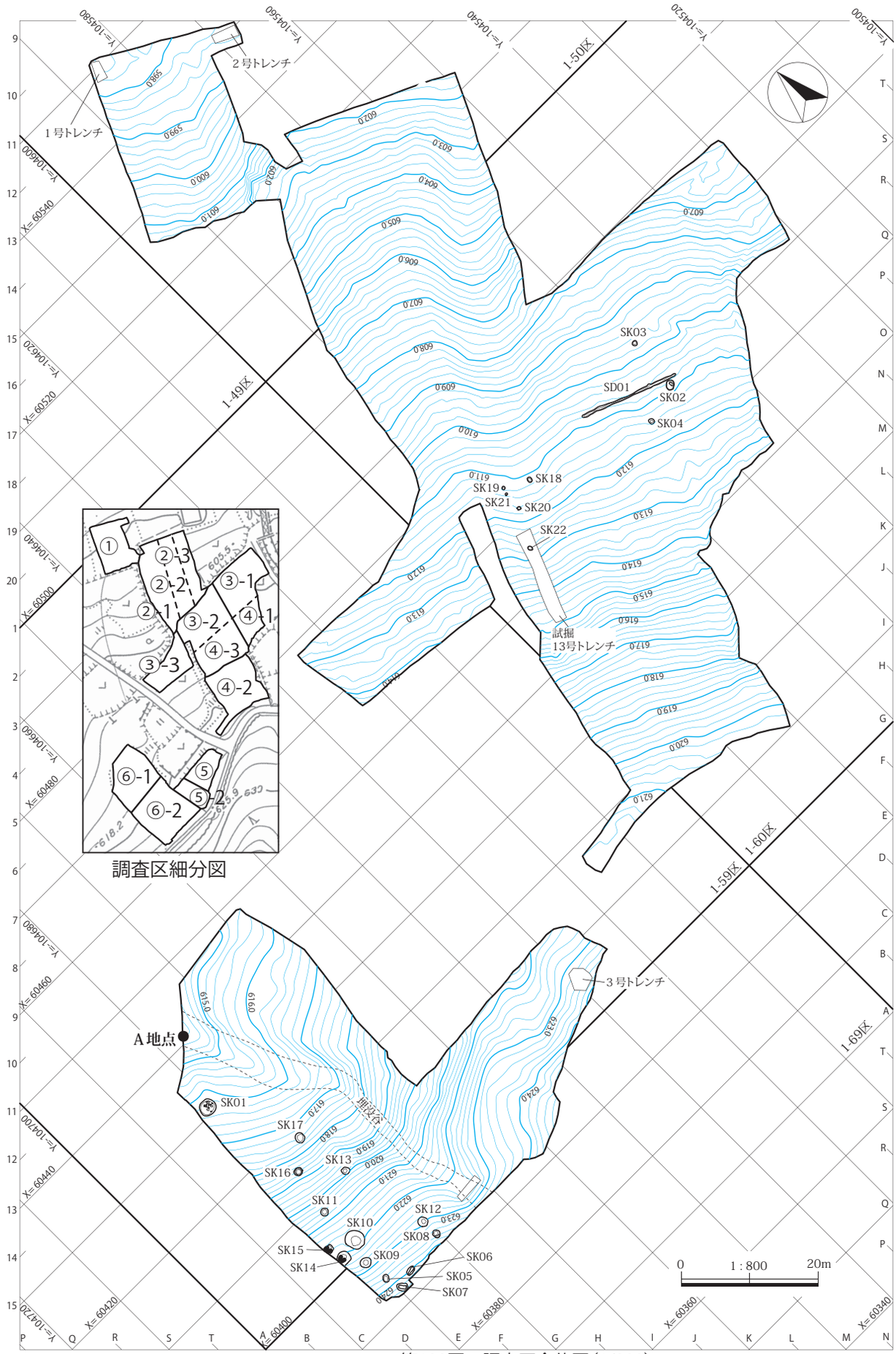
（１）土坑

SK01（第200・203図／第28表／ＰＬ24・26）

位置　１－59区Ｄ－14　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　平面形は円形。規模は長軸245 cm、短軸207 cm、深さ47cm。　**主軸方位**　Ｎ－80°－Ｗ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　丸底。　**遺物**　縄文土器片11点と黒曜石製チップ１点と粗礫が覆土上層からまとまって出土する。遺物のうち、押型文の施文された土器片３点を図示した。いずれも早期前半の卯ノ木式と考えられる。図示しなかった遺物には、絡条体圧痕文が施文された土器片もみられる。　**備考**　出土遺物から縄文時代早期に帰属するものと考えられる。

SK08（第200図）

位置　１－69区Ｆ－２　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　平面形は楕円形。規模は長軸122 cm、短軸94 cm、深さ37cm。　**主軸方位**　Ｎ－13°－Ｅ　**壁面**　段をもってほぼ垂直に立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　遺物はないが、形態や規模、覆土などから縄文時代とした。



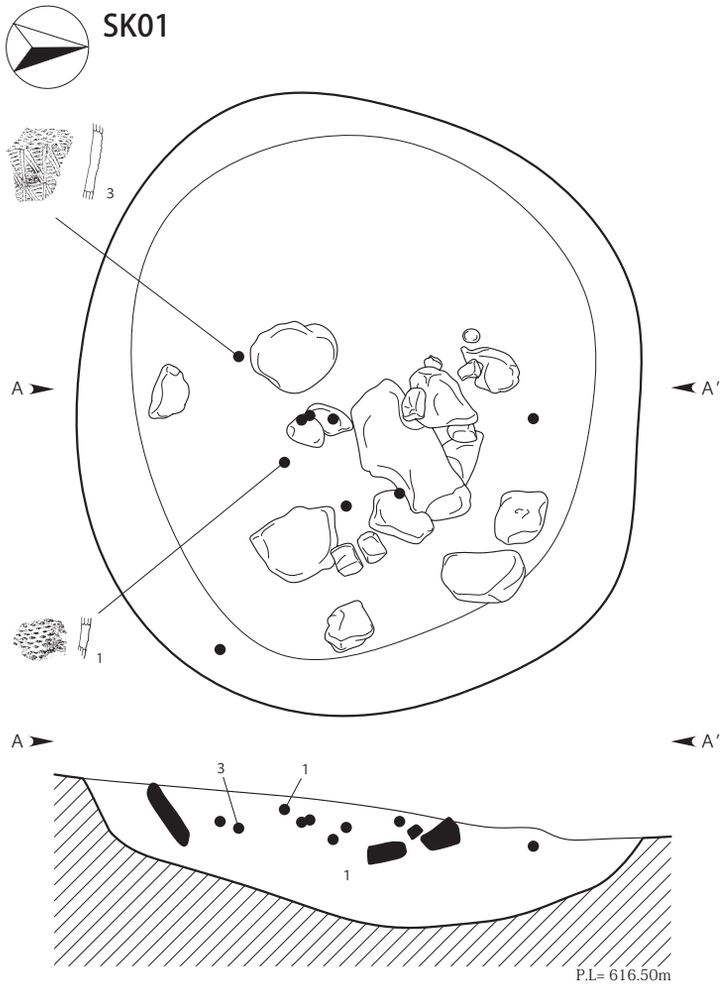
第199図　調査区全体図（1/800）

SK09（第 200 図／ＰＬ 24）

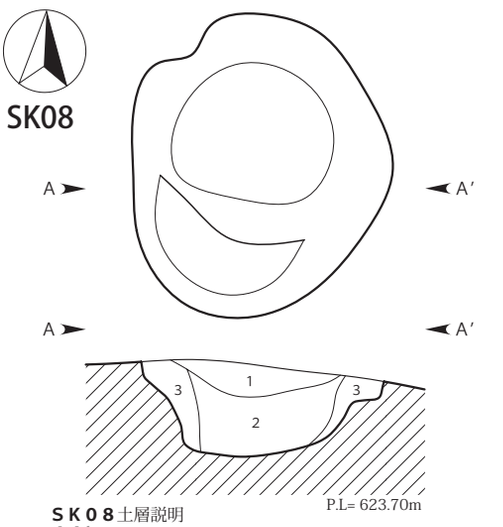
位置　1 － 69 区Ｄ－１　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒色土と黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　平面形は楕円形。規模は長軸 166 cm、短軸 132 cm、深さ 42cm。　**主軸方位**　Ｎ－ 88 °－Ｅ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　遺物はないが、形態や規模、覆土などから縄文時代とした。

SK10（第 201 図／ＰＬ 24）

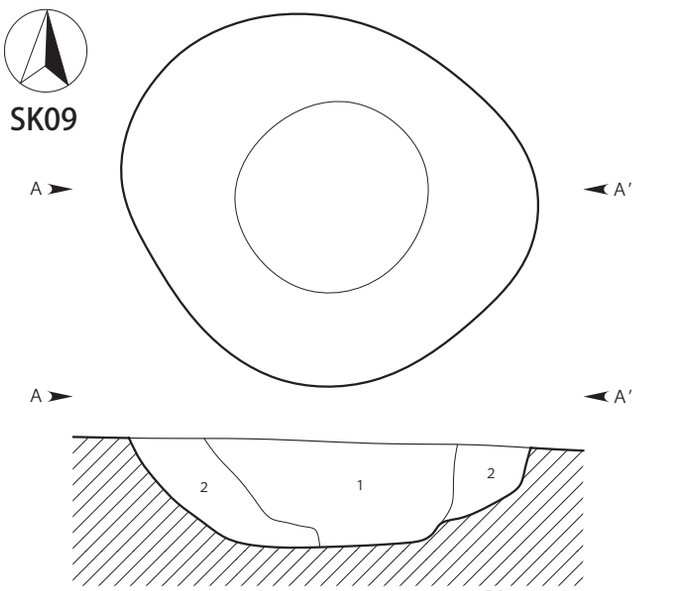
位置　1 － 59 区Ｅ－ 20　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒色土と暗褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　平面形は円形。規模は長軸 294 cm、短軸 250 cm、深さ 64cm。　**主軸方位**　Ｎ－ 8 °－Ｗ　**壁面**　大きく外傾して立ち上がり、上位でほぼ垂直に立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　遺物はないが、形態や規模、覆土などから縄文時代とした。



ＳＫ０１土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色砂層：粘性なし。しまりやや弱い。ローム粒（φ0.2～0.5cm）微量含む。



ＳＫ０８土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。
2．黒褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。
3．黒褐色土層：粘性なし。しまりなし。YPk（φ 1.0～2.0cm）微量含む。



ＳＫ０９土層説明
ＡＡ′
1．黒 色 土 層：粘性弱い。しまり弱い。
2．黒褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。

0　1 : 30　1m

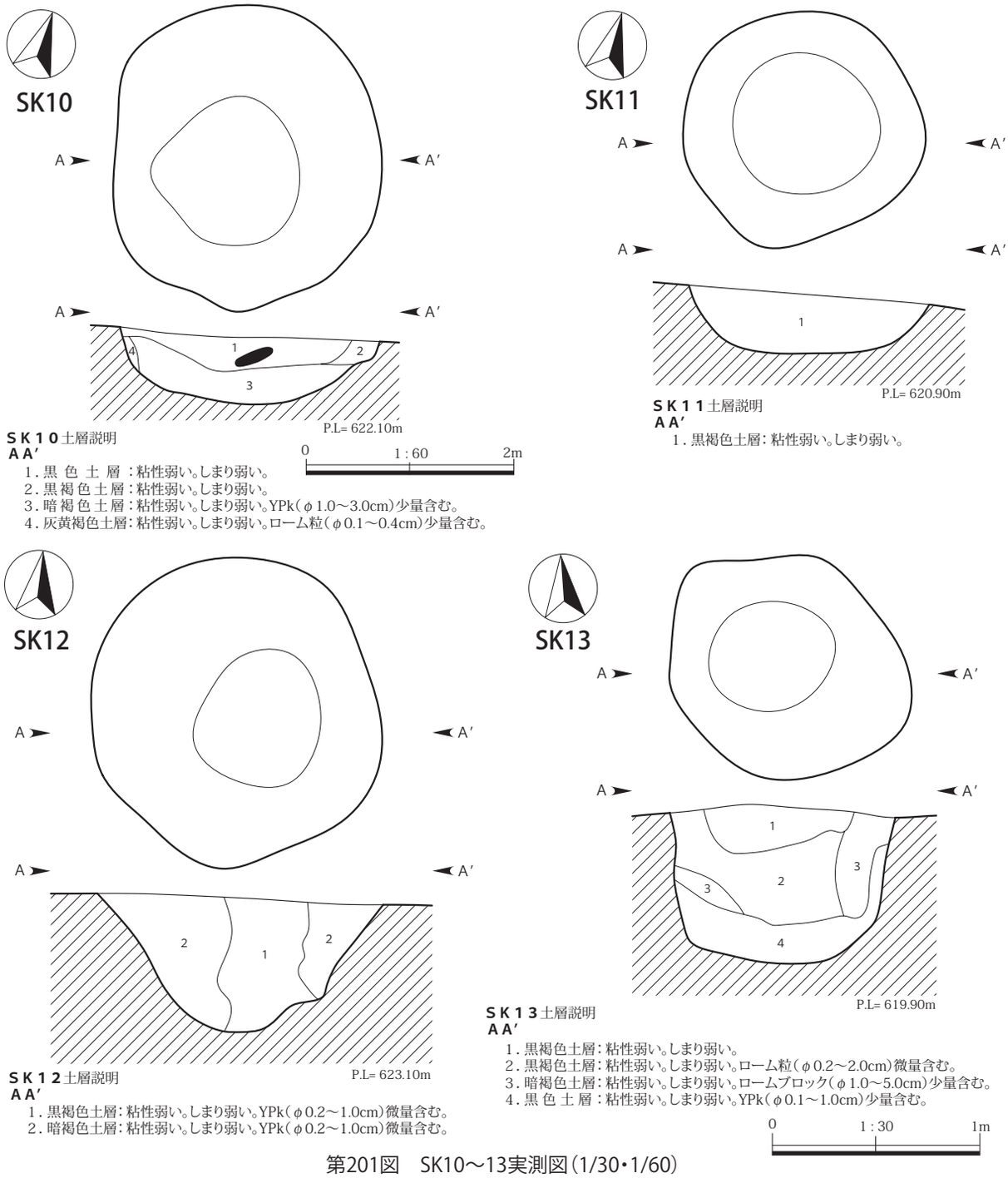
第200図　SK01・08・09実測図（1/30）

SK11（第 201 図／ＰＬ 24）

位置　１－59 区Ｅ－19　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　平面形は円形。規模は長軸 117 cm、短軸 104 cm、深さ 29cm。　**主軸方位**　Ｎ－82°－Ｅ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　遺物はないが、形態や規模、覆土などから縄文時代とした。

SK12（第 201 図／ＰＬ 25）

位置　１－69 区Ｆ－１　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土と暗褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　平面形は楕円形。規模は長軸 150 cm、短軸 124 cm、深さ 64cm。　**主軸**



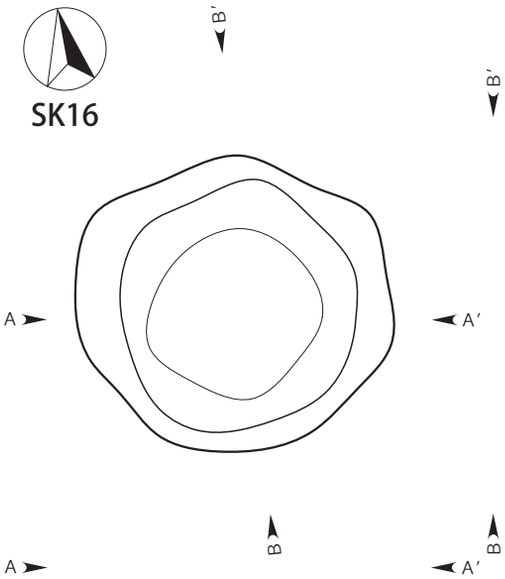
ＳＫ１０土層説明
ＡＡ′
1．黒 色 土 層 ：粘性弱い。しまり弱い。
2．黒 褐 色 土 層：粘性弱い。しまり弱い。
3．暗 褐 色 土 層：粘性弱い。しまり弱い。YPk（φ1.0～3.0cm）少量含む。
4．灰黄褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。ローム粒（φ0.1～0.4cm）少量含む。

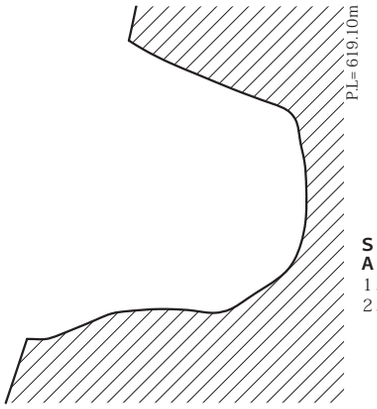
ＳＫ１１土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。

ＳＫ１２土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。YPk（φ0.2～1.0cm）微量含む。
2．暗褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。YPk（φ0.2～1.0cm）微量含む。

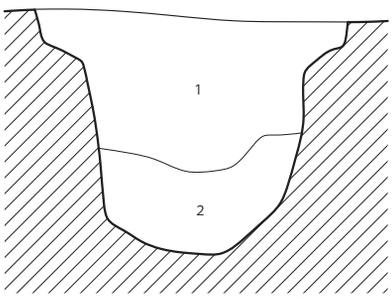
ＳＫ１３土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。
2．黒褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。ローム粒（φ0.2～2.0cm）微量含む。
3．暗褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。ロームブロック（φ1.0～5.0cm）少量含む。
4．黒 色 土 層 ：粘性弱い。しまり弱い。YPk（φ0.1～1.0cm）少量含む。

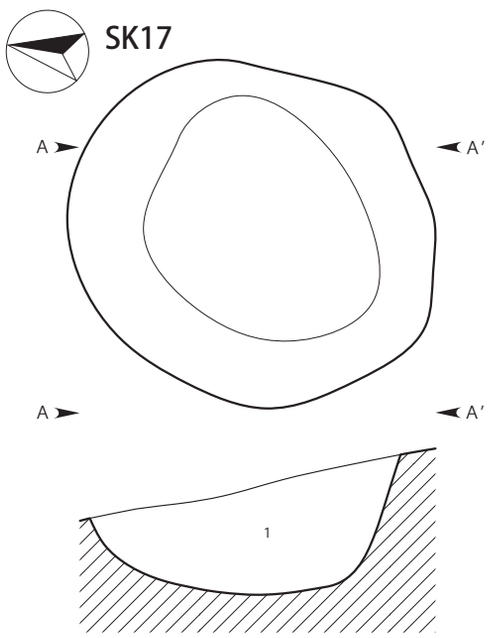
第201図　SK10～13実測図（1/30・1/60）



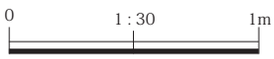


SK16土層説明
AA′
1．黒色土層：粘性弱い。しまり弱い。
2．黒色土層：粘性弱い。しまり弱い。ロームブロック（φ3.0～5.0cm）少量含む。YPk（φ0.5～1.0cm）微量含む。





SK17土層説明
AA′
1．黒色土層：粘性弱い。しまり弱い。YPk（φ0.1～0.5cm）微量含む。



第202図　SK16・17実測図（1/30）

方位　N－12°－W　**壁面**　ほぼ垂直に立ち上がり、上位が大きく外傾する。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　黒曜石製剥片1点が出土したが、図示しなかった。　**備考**　形態や規模、覆土などから縄文時代とした。

SK13（第201図／ＰＬ25）

位置　1－59区F－18　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　平面形は円形。規模は長軸127 cm、短軸102 cm、深さ75cm。　**主軸方位**　N－48°－W　**壁面**　ほぼ垂直に立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　遺物はないが、形態や規模、覆土などから縄文時代とした。

SK16（第202図／ＰＬ25）

位置　1－59区E－18　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　平面形は円形。規模は長軸124 cm、短軸92 cm、深さ93cm。　**主軸方位**　N－88°－E　**壁面**　ほぼ垂直に立ち上がり、上端に段をもつ。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　遺物はないが、形態や規模、覆土などから縄文時代とした。

SK17（第202・203図／第28表／ＰＬ25・26）

位置　1－59区F－17　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　北側の壁面が削平されているが、概ね良好。　**覆土**　黒色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　平面形は楕円形。規模は長軸150 cm、短軸120 cm、深さ46cm。　**主軸方位**　N－35°－E　**壁面**　やや外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　縄文土器片6点が出土。遺物の

第203図　縄文時代土坑出土遺物実測図（1/3）

うち、押型文の施文された土器片１点を図示した。早期前半の卯ノ木式と考えられる。　**備考**　試掘９号トレンチ SK01 である。出土遺物から縄文時代早期前半に帰属するものと考えられる。

第３節　平安時代の遺構と遺物

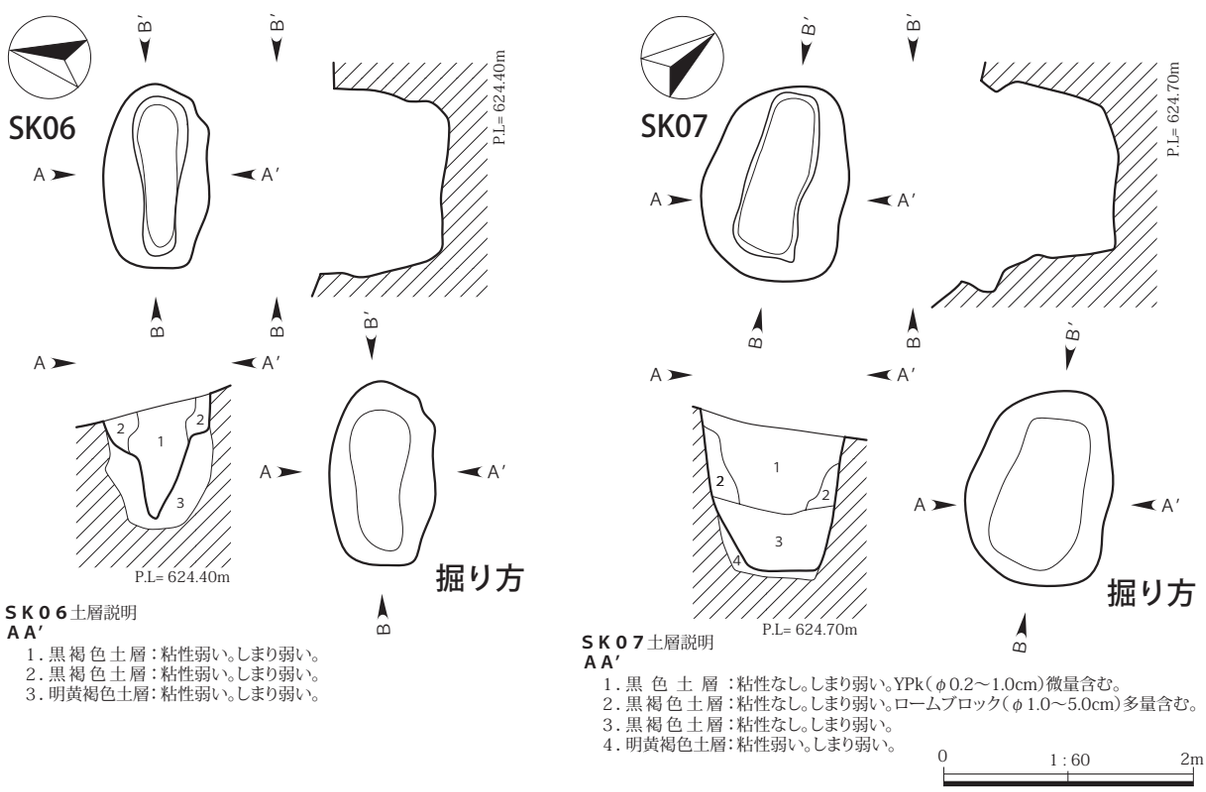
（1）陥し穴

SK06（第 204 図／ＰＬ 25）

位置　１－69 区Ｅ－２　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　上面形が楕円形、下面形が長方形。規模は長軸 146cm、短軸 80cm、深さ 90cm。　**主軸方位**　Ｎ－80°－Ｅ　**壁面**　下位がほぼ垂直に立ち上がり、上位が大きく外傾する。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　形態や規模、構造、覆土などから平安時代の陥し穴と考えられる。

SK07（第 204 図／ＰＬ 25）

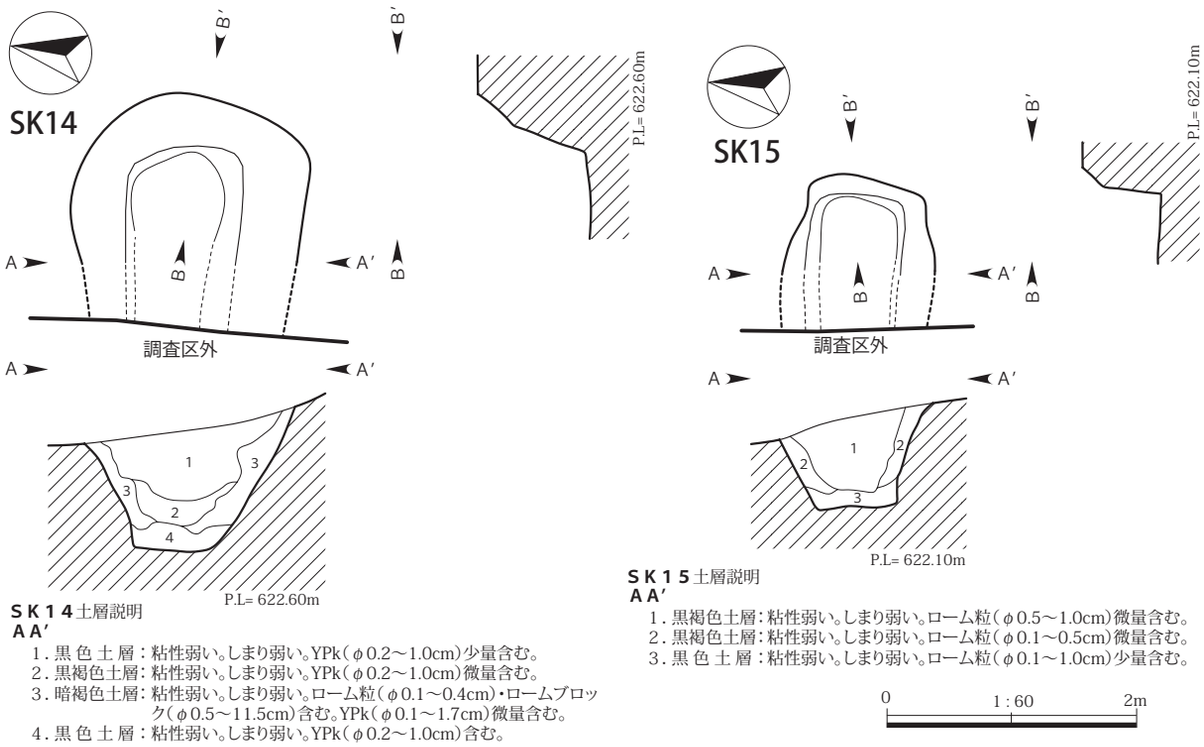
位置　１－69 区Ｅ－２　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒色土と黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　上面形が楕円形、下面形が長方形。規模は長軸 160cm、短軸 100cm、深さ 115cm。　**主軸方位**　Ｎ－33°－Ｗ　**壁面**　下位がほぼ垂直に立ち上がり、上位が外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　形態や規模、構造、覆土などから平安時代の陥し穴と考えられる。



ＳＫ０６土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。
2．黒褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。
3．明黄褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。

ＳＫ０７土層説明
ＡＡ′
1．黒色土層：粘性なし。しまり弱い。YPk（φ0.2～1.0cm）微量含む。
2．黒褐色土層：粘性なし。しまり弱い。ロームブロック（φ1.0～5.0cm）多量含む。
3．黒褐色土層：粘性なし。しまり弱い。
4．明黄褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。

第204図　SK06・07実測図（1/60）



ＳＫ１４土層説明
ＡＡ′
1．黒 色 土 層：粘性弱い。しまり弱い。YPk（φ0.2～1.0cm）少量含む。
2．黒褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。YPk（φ0.2～1.0cm）微量含む。
3．暗褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。ローム粒（φ0.1～0.4cm）・ロームブロック（φ0.5～11.5cm）含む。YPk（φ0.1～1.7cm）微量含む。
4．黒 色 土 層：粘性弱い。しまり弱い。YPk（φ0.2～1.0cm）含む。

ＳＫ１５土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。ローム粒（φ0.5～1.0cm）微量含む。
2．黒褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。ローム粒（φ0.1～0.5cm）微量含む。
3．黒 色 土 層：粘性弱い。しまり弱い。ローム粒（φ0.1～1.0cm）少量含む。

第205図　SK14・15実測図（1/60）

SK14（第 205 図）

位置　1－59 区Ｄ－20　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒色土と黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　上面形が円形、下面形が長方形。規模は長軸 136cm 以上、短軸 186cm、深さ 97cm。　**主軸方位**　N－88°－E　**壁面**　下位がほぼ垂直に立ち上がり、上位が大きく外傾する。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　覆土中より縄文土器片 1 点を出土するが、遺構に伴わない混入物と考えられ、遺構外遺物として図示した。　**備考**　形態や規模、構造、覆土などから平安時代の陥し穴と考えられる。

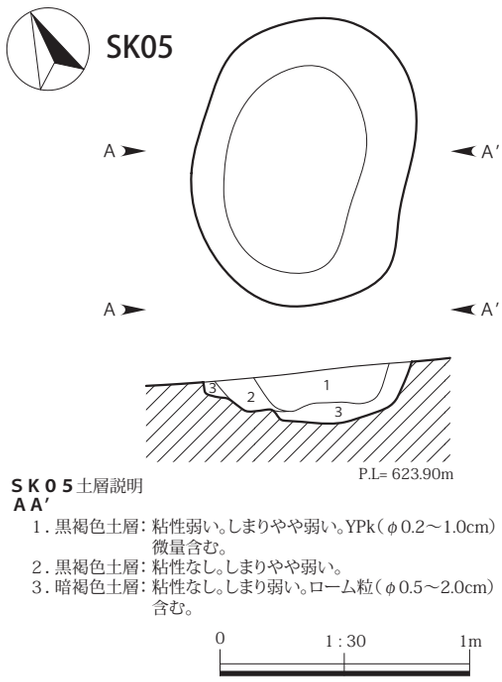
SK15（第 205 図）

位置　1－59 区Ｄ－20　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　上面形が楕円形、下面形が長方形。規模は長軸 80cm 以上、短軸 122cm、深さ 75cm。　**主軸方位**　N－83°－E　**壁面**　下位がほぼ垂直に立ち上がり、上位が大きく外傾する。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　形態や規模、構造、覆土などから平安時代の陥し穴と考えられる。

（2）土坑

SK05（第 206 図）

位置　1－69 区Ｄ－2　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。　**平面形と規模**　平面形は楕円形。規模は長軸 116 cm、短軸 83 cm、深さ 22cm。　**主軸方位**　N－33°－E　**壁面**　ほぼ垂直に立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備**



ＳＫ０５土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまりやや弱い。YPk（φ0.2～1.0cm）微量含む。
2．黒褐色土層：粘性なし。しまりやや弱い。
3．暗褐色土層：粘性なし。しまり弱い。ローム粒（φ0.5～2.0cm）含む。

第206図　SK05実測図（1/30）

考　掘り込みは浅いが、形態や規模、構造、覆土などから陥し穴の可能性も考えられるため、平安時代とした。

第４節　時期不明の遺構と遺物

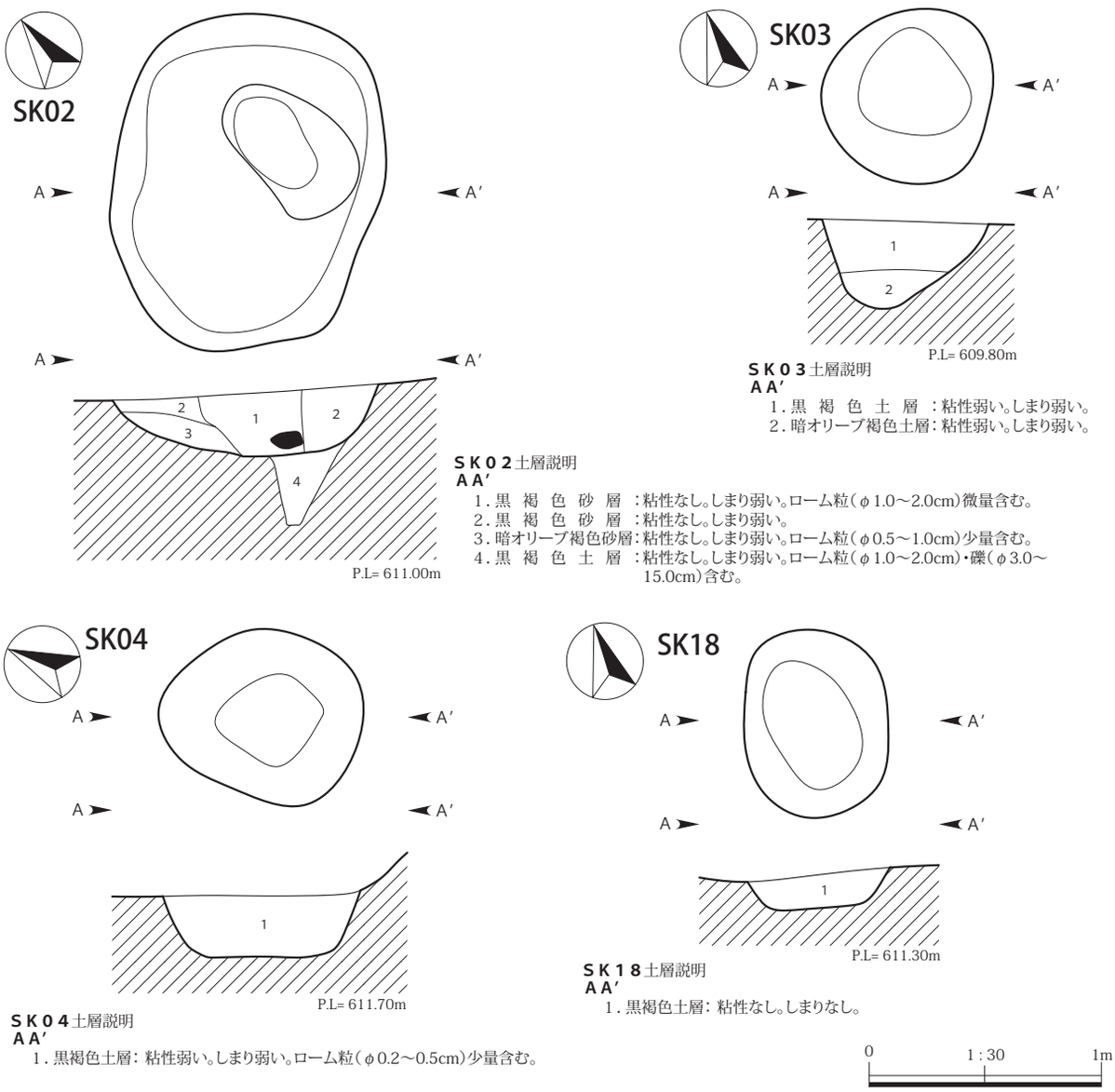
（１）土坑

SK02（第 207 図）

位置　１－60区Ｉ－９　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　平面形は楕円形。規模は長軸 146 cm、短軸 110 cm、深さ 27cm。　**主軸方位**　Ｎ－45°－Ｅ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　遺物もなく、時期不明である。

SK03（第 207 図／ＰＬ 25）

位置　１－60区Ｉ－７　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　平面形は円形。規模は長軸 77 cm、短軸 73 cm、深さ 37cm。　**主軸方位**　Ｎ－67°－Ｅ　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　遺物もなく、時期不明である。



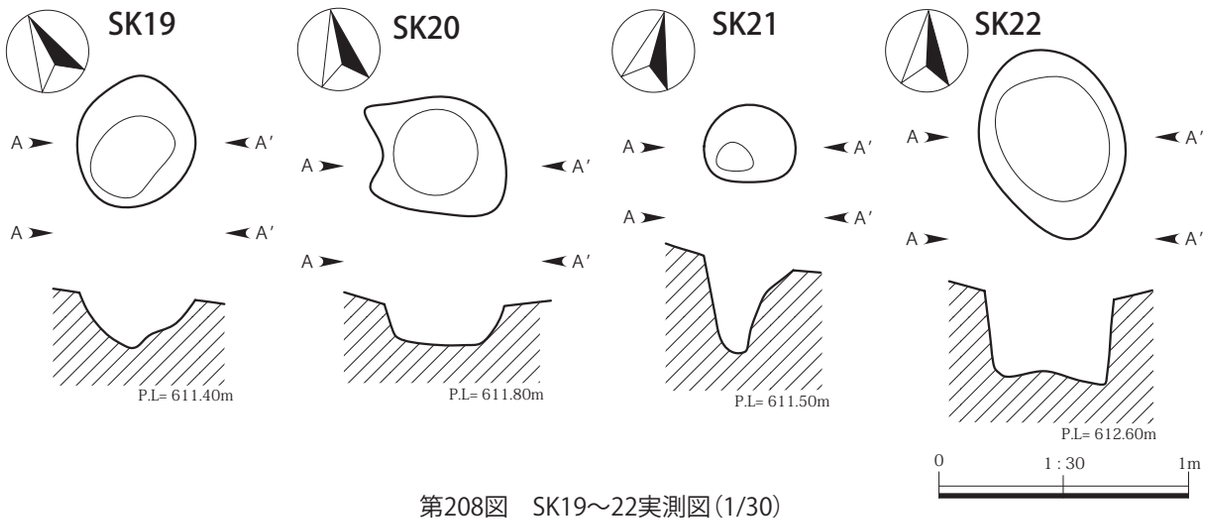
ＳＫ０２土層説明
ＡＡ′
1．黒　褐　色　砂　層　：粘性なし。しまり弱い。ローム粒（φ1.0～2.0cm）微量含む。
2．黒　褐　色　砂　層　：粘性なし。しまり弱い。
3．暗オリーブ褐色砂層：粘性なし。しまり弱い。ローム粒（φ0.5～1.0cm）少量含む。
4．黒　褐　色　土　層　：粘性なし。しまり弱い。ローム粒（φ1.0～2.0cm）・礫（φ3.0～15.0cm）含む。

ＳＫ０３土層説明
ＡＡ′
1．黒　褐　色　土　層　：粘性弱い。しまり弱い。
2．暗オリーブ褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。

ＳＫ０４土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色土層：粘性弱い。しまり弱い。ローム粒（φ0.2～0.5cm）少量含む。

ＳＫ１８土層説明
ＡＡ′
1．黒褐色土層：粘性なし。しまりなし。

第207図　SK02～04・18実測図（1/30）



第208図　SK19～22実測図（1/30）

SK04（第 207 図）

位置　1－60区H－9　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　平面形は楕円形。規模は長軸 88 cm、短軸 64 cm、深さ 26cm。　**主軸方位**　N－30°－W　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　遺物もなく、時期不明である。

SK18（第 207 図）

位置　1－60区D－8　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　平面形は楕円形。規模は長軸 80 cm、短軸 64 cm、深さ 14cm。　**主軸方位**　N－6°－W　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　遺物もなく、時期不明である。

SK19（第 208 図）

位置　1－60区C－8　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黄灰色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　平面形は円形。規模は長軸 48 cm、短軸 45 cm、深さ 22cm。　**主軸方位**　N－85°－W　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　試掘 13 号トレンチ SK05 である。遺物もなく、時期不明である。

SK20（第 208 図）

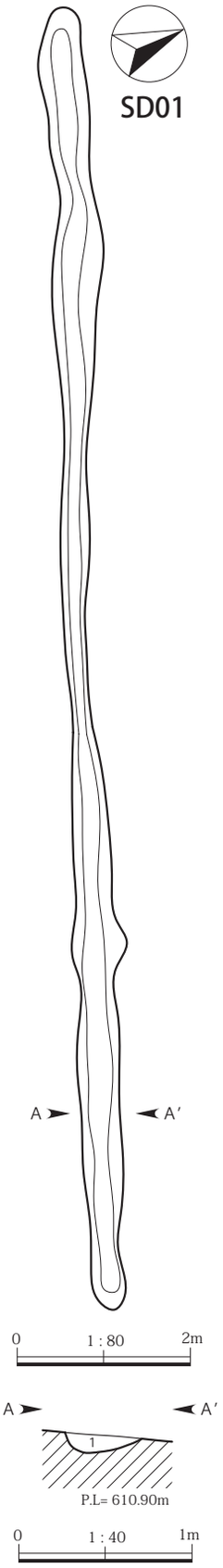
位置　1－60区C－8　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黒褐色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　平面形は不整楕円形。規模は長軸 66 cm、短軸 45 cm、深さ 15cm。　**主軸方位**　N－40°－W　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　凹凸がある。　**遺物**　なし。　**備考**　試掘 13 号トレンチ SK03 である。遺物もなく、時期不明である。

SK21（第 208 図）

位置　1－60区C－8　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黄灰色土が基調で、人為堆積を示す。　**平面形と規模**　平面形は楕円形。規模は長軸 36 cm、短軸 30 cm、深さ 36cm。　**主軸方位**　N－67°－E　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　試掘 13 号トレンチ SK04 である。遺物もなく、時期不明である。

SK22（第 208 図）

位置　1－60区C－9　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　良好。　**覆土**　黄灰色土が基調で、人為堆積を示す。



SD01 土層説明
AA′
1. 黒色砂層：粘性なし。しまり弱い。

第209図　SD01実測図（1/40・1/80）

平面形と規模　平面形は楕円形。規模は長軸 76 cm、短軸 50 cm、深さ 33cm。**主軸方位**　N－25°－W　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　中央が盛り上がるが、概ね平坦。　**遺物**　なし。　**備考**　試掘 13 号トレンチ SK01 である。遺物もなく、時期不明である。

（2）溝跡

SD01（第 209 図／ＰＬ 25）

位置　1－60 区Ｆ～Ｉ－8・9　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　部分的な残存であるが、比較的良好。　**覆土**　黒色砂が基調で、人為堆積を示す。　**規模**　長さ 15 m、幅 64cm、深さ 21cm。　**主軸方位**　N－69°－W　**壁面**　外傾して立ち上がる。　**底面**　丸底。　**遺物**　なし。　**備考**　試掘 15 号トレンチ SD01 である。斜面と平行し、東西方向を直線状に走行する。遺物もなく、時期不明である。

（3）埋没谷（第 210 図）

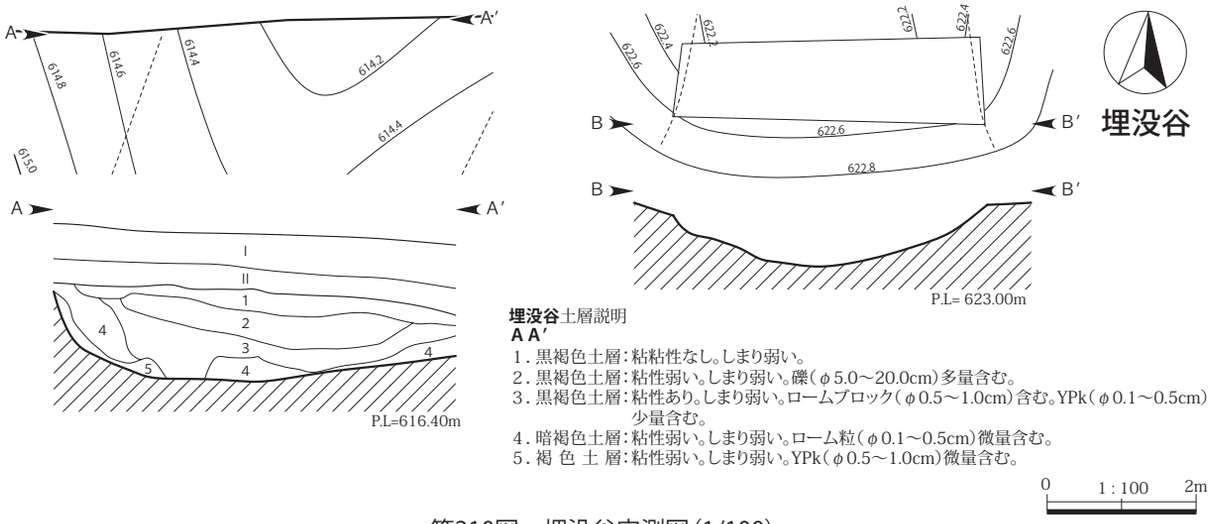
⑥区の南東から南西に向かって蛇行する谷状の落込みを確認し、埋没谷とした。埋没谷は、遺跡の西側を北流する深沢に向かっており、深沢の支流であったと考えられる。埋没谷の左岸はローム層であるが、底面と右岸はローム混じりの礫層であり、この礫層は遺跡の大部分の基盤層である。時期は不明である。

第５節　遺構外出土遺物（第 211 図／第 28 表／ＰＬ 26）

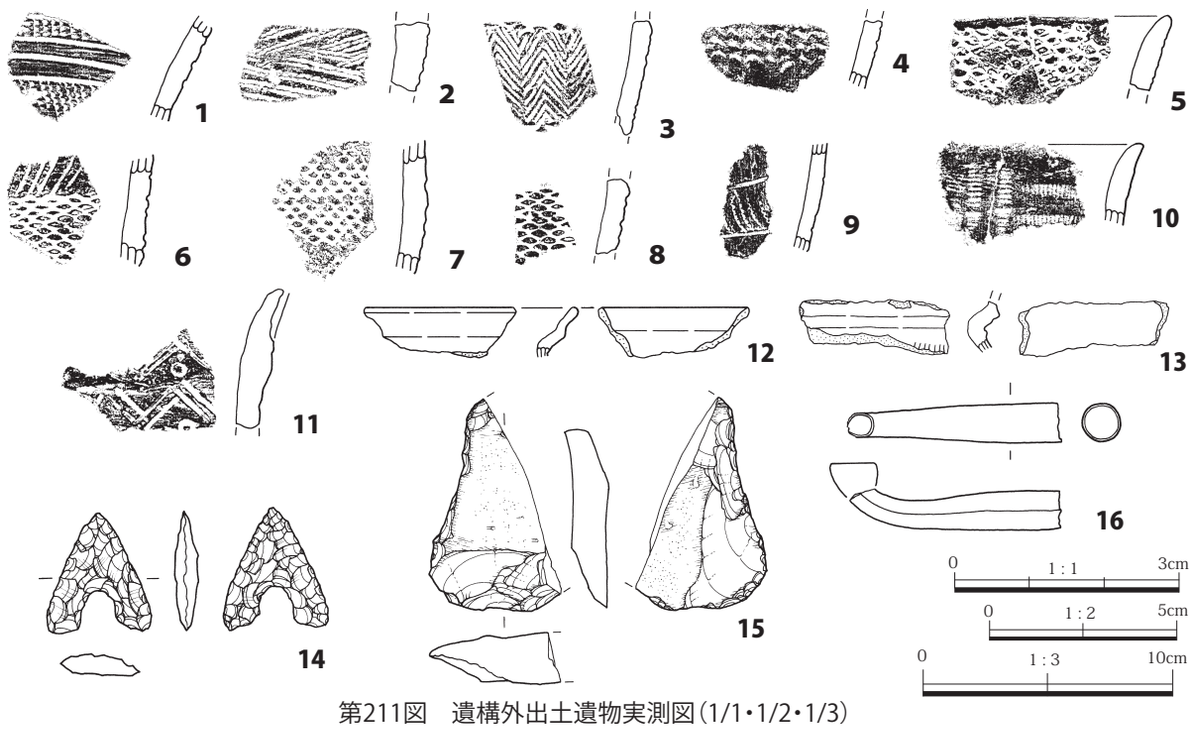
縄文時代の遺物は主に⑥区から出土し、それ以外の時代の遺物は主に③・④区から出土するなどの傾向がみられる。

⑥区から縄文土器の深鉢片 91 点、石器 8 点、近世の陶磁器片 1 点の計 100 点、③・④区から縄文土器の深鉢片 4 点、石器 1 点、古墳時代の土師器甕片 7 点、古代の土師器甕片 1 点、軟質陶器片 1 点、近世の陶磁器片 1 点、近現代の陶磁器片 6 点、近世の銅製品 1 点、炭化物片 1 点の計 23 点、表土などから縄文土器の深鉢片 19 点、近世の古銭 1 点の計 20 点、合計 143 点が出土している。また、SK14 から縄文土器が 1 点出土しているが、SK14 は平安時代の陥し穴と考えられるため、遺構外として本節で取り扱う。

このうち、縄文土器 11 点、石器 2 点、土師器 2 点、銅製品 1 点を図示した（第 211 図）。縄文土器はいずれも深鉢片である。大半は早期に比定され、なかでも早期前半の卯ノ木式と考えられる押型文（３～８）が顕著である。いずれも⑥区から出土した。③・④区から出土した古墳時代前期の S 字甕の口縁部片（12・13）も町内では出土例は少ない。



第210図　埋没谷実測図（1/100）



第211図　遺構外出土遺物実測図（1/1・1/2・1/3）

第５章　まとめ

本遺跡では、⑥区で縄文時代の土坑９基と平安時代の陥し穴４基、土坑１基が検出され、③・④区で時期不明の土坑８基、溝１条が検出された。ローム土が良好に残存している⑥区や、地盤の礫層のなかで微高地状にローム土が残る③-1・2・④-1・3区に遺構や遺物が集中している。既往の調査でも遺構は西の深沢沿いの高地部分に集中しており、もともとこのような遺構分布であったと考えられよう。縄文時代とした土坑群は、縄文土器が出土したものが２基だけであり、いずれも早期と考えられる。なかでもSK01は、町内ではこれまで出土例の少ない押型文土器が破片ではあるが、まとまって出土しており、当該期の様相を知る上での端緒となると考えられる。陥し穴は、４基のみであるが、これまで町内や東吾妻町で発見された古代の陥し穴と同様のものであり、古代（平安時代）と考えられる。まわりに集落が見られないという点では、町営横壁土地改良事業地内の横壁勝沼Ⅱ遺跡と似ている。集落に伴うものと伴わないものとでの相違性や類似性など検討課題は多いと考えられる。

第 28 表　山根Ⅲ遺跡Ⅲ出土遺物観察表

縄文時代土坑出土遺物観察表

挿図No.	図版No.	器種	法量（器高／口径／底径）（cm）	特徴（形態・手法等）	焼成	胎土・材質等	色調（外面／内面）	備考
203- 1	26	縄文土器・深鉢	（3.3）／－／－	外面全面に押型文（楕円文）を施す。内面黒斑。早期前半（卯ノ木式）。	良好	雲母・石英・角閃石	にぶい黄褐／黒褐	破片資料（体部）　SK01
203- 2	26	縄文土器・深鉢	（3.7）／－／－	外面全面に押型文（楕円文）を施す。内面ナデ。早期前半（卯ノ木式）。	良好	石英・長石・砂礫	にぶい黄褐／褐	破片資料（体部）　SK01
203- 3	26	縄文土器・深鉢	（6.0）／－／－	外面に押型文を施文する。帯状の楕円文と重層山形文により区画される。内面ナデ。早期前半（卯ノ木式）か。	良好	石英・長石・角閃石・砂粒	にぶい黄橙／灰黄褐	破片資料（体部）　SK01
203- 4	26	縄文土器・深鉢	（4.2）／－／－	外面全面に押型文（楕円文）を施す。内面に横位ハケメのち縦位ミガキを施す。早期前半（卯ノ木式）。	良好	石英・砂粒	黒褐／にぶい褐	破片資料（体部）　SK17（試掘９号トレンチ SK01）

遺構外出土遺物観察表

211- 1	26	縄文土器・深鉢	（4.1）／－／－	中央に平行沈線を施し、上下に貝殻背圧痕文・貝殻腹縁文を施文する。内面ナデ。早期中葉（田戸上層式）か。	良好	石英・角閃石・砂礫	にぶい黄橙	破片資料（体部）　SK14
211- 2	26	縄文土器・深鉢	（2.7）／－／－	外面に横帯状に羽状縄文を施文する。内面に指頭圧痕・繊維痕が残る。前期初頭（花積下層式）か。	良好	石英・長石・砂粒・繊維	橙／にぶい黄橙	破片資料（体部）　⑥-1 区
211- 3	26	縄文土器・深鉢	（4.5）／－／－	外面全面に押型文（山形文）を施す。早期前半（卯ノ木式）。	良好	石英・長石・角閃石・砂粒・繊維	にぶい黄橙	破片資料（体部）　⑥-1 区
211- 4	26	縄文土器・深鉢	（2.6）／－／－	外面全面に押型文（山形文）を施す。内面は砂粒がまぶされ、指頭圧痕が残る。早期前半（卯ノ木式）。	良好	雲母・石英・長石・角閃石・砂粒	にぶい黄橙／黒褐	破片資料（体部）　⑥-1 区
211- 5	26	縄文土器・深鉢	（2.9）／－／－	外面全面に押型文（楕円文）を施す。口縁部緩く外反。口唇部ナデ。内面ナデ・指頭圧痕。早期前半（卯ノ木式）。	良好	石英・長石・角閃石・砂粒	灰黄褐／にぶい黄橙	破片資料（口縁部）　⑥-1 区
211- 6	26	縄文土器・深鉢	（4.4）／－／－	押型文（楕円文）と斜位の平行沈線を施文する。内面ナデ・繊維痕。早期前半（卯ノ木式）か。	良好	石英・長石・角閃石・砂粒・繊維	にぶい褐／褐	破片資料（体部）　⑥-1 区
211- 7	26	縄文土器・深鉢	（5.2）／－／－	外面全面に押型文（楕円文）を施す。内面ナデ・ミガキ・繊維痕。早期前半（卯ノ木式）。	良好	石英・角閃石・繊維	にぶい黄褐／褐	破片資料（体部）　⑥-1 区
211- 8	26	縄文土器・深鉢	（2.9）／－／－	外面全面に押型文（楕円文）を施す。内面ミガキ・繊維痕。早期前半（卯ノ木式）。	良好	石英・角閃石・繊維・砂粒	黒褐／褐	破片資料（体部）　⑥-1 区
211- 9	26	縄文土器・深鉢	（4.3）／－／－	外面中央に平行沈線をめぐらし、区画内に貝殻腹縁文を施す。内面ナデ。早期中葉（田戸上層式）か。	良好	石英・長石・角閃石・砂粒	にぶい橙／にぶい黄橙	破片資料（体部）　⑥-1 区
211-10	26	縄文土器・深鉢	（3.2）／－／－	外面に自縄自巻と思われる絡条体による圧痕文を施す。口縁部は緩く外反する。内面に指頭圧痕・繊維痕が残る。早期後半（子母口式）か。	良好	石英・長石・角閃石・橄欖石・砂粒・繊維	灰黄褐	破片資料（口縁部）　⑥-1 区
211-11	26	縄文土器・深鉢	（5.5）／－／－	外面に円形刺突文・山形文を施す。内面に指頭圧痕・繊維痕が残る。早期後半（鵜ヶ島台式）か。	良好	石英・長石・角閃石・砂粒・繊維・赤褐色粒	黒褐／にぶい黄橙	破片資料（体部）　⑥-1 区
211-12	26	土師器・甕	（1.9）／－／－	S 字状口縁甕の口縁部片。口縁部は外反し、上段と下段は明瞭に段差を持ち、長さはほぼ同じである。内外面ともに横位ナデ。上段内面が窪んで沈線化している。口縁部先端は丸みを帯びる。外面に炭化物付着。	酸化焔・良好	石英・角閃石・砂粒・黒色粒	灰黄褐／にぶい黄橙	口縁部 10％残存。　③-1 区
211-13	26	土師器・甕	（1.9）／－／－	S 字状口縁甕の口縁部下段から肩部片。口縁部下段は外反し、内外面横位ナデ。肩部に一重の斜位ハケメ。	酸化焔・やや不良	石英・長石・角閃石・砂粒	にぶい黄褐	口縁部 10％残存。　③-1 区
211-14	26	剥片石器類・石鏃	長 1.5 ／幅 1.4 ／厚 0.3	重量 0.5g。凹基。	－	チャート	－	完存。　⑥-1 区
211-15	26	打製石斧類・打製石斧	長（8.3）／幅（5.3）／厚 2.0	重量 61.4g。のちスクレイパーとして二次転用か。	－	頁岩か	－	欠損あり。　⑥-1 区
211-16	26	銅製品・煙管	長（5.6）／幅 1.1 ／厚 0.1	重量 6.3g。雁首。脂返しの湾曲小さい。古泉編年（1985）の第 5 段階（18 世紀後半）か。	－	－	－	雁首部の首ほぼ完存。火皿欠損。　③-1 区